

春城日誌
一月至四月
十二年

特別
14
1919
552



巴圖日誌

明治四十二年一月以降

海島重之入



一月元旦

拂曉寤るとして起床ぬくぬく居る好
和を感ぜけり多と云ふ、本年馬鹿
五十年、まゝも流く玉境の徳に入
飲みんは頼り徳あり前ねをばさし
りりたるを惚つるるおまへ、つらや
り早くその概とるる、衆と共く分心



の文換をうきんりんと也余先を中一
暖座未比林火きあし打く節一天
いさくちも雪さく障り出つ暖炉
漸く扱し雪も晴衆多ふ集あま
即ち共の杯をふるけり節多院中子
共共の扱の中し節直うふ前縁を
と流ぬおあんのは田るをも拉しん伊
縁及しそく福松をもあつ狎妓敷
加多末あふおあしそくの栞海新
体完押ひえしとぬ味をそくちんせ
ゆくお田るをもあつあつゆふ節
章一四ちくも空をふるふ而して未比

横原製

余うそ迄扱に準侍あり新く於文の
け儀也年一節の懶く思ひ又共
為甲の扱す

二〇

暖座未比林火きあし打く節一天
いさくちも雪さく障り出つ暖炉
漸く扱し雪も晴衆多ふ集あま
即ち共の杯をふるけり節多院中子
共共の扱の中し節直うふ前縁を
と流ぬおあんのは田るをも拉しん伊
縁及しそく福松をもあつ狎妓敷
加多末あふおあしそくの栞海新
体完押ひえしとぬ味をそくちんせ
ゆくお田るをもあつあつゆふ節
章一四ちくも空をふるふ而して未比

所を弄す、倭官に都遣りたる暇を以て
付のそす事なる暇ひもたしし洋更に
控居しとぬる、控居しりりす、控居す、

考

明、中井政宗と秋室印剌のつおきを以
ふ、坊子系一り、阿す、在ぬ所のより
同の坊子に電報を以てし、熱海の
「念のつうも」もいふ、車系毎の坊子
記名す、つと海流印記名記名の空
格とす、つと一坊の海流とす、
昔記でし、つと、十六人籍、他あり、

東林園

ちり、つと海流とす、坊谷系毎の坊子
系、阿す、つと海流印記名記名の空
格とす、坊子系一り、阿す、在ぬ所のより
同の坊子に電報を以てし、熱海の
「念のつうも」もいふ、車系毎の坊子
記名す、つと海流印記名記名の空
格とす、つと一坊の海流とす、
昔記でし、つと、十六人籍、他あり、

明、そのあまの心、言ふ事、浮世の苦物
世をとりよ、何れも正しく、
さ、高き由、松翁、直哉、二顆、おら、
終り、まき、と、あ、地、く、う、
す、本、方、に、找、る、お、く、ゆ、る、ま、さ、し、大
江、あ、年、記、に、事、を、授、及、社、の、徳、三、
邱、流、る、う、お、以、お、を、お、ん、ま、
その報、記、者、修、補、者、也、お、筑、世、に、部
ち、お、お、ん、り、ゆ、る、う、行、き、お、さ、
ゆ、る、お、お、る、う、年、記、の、末、也、

東林集

明、林、通、の、師、説、の、文、字、一、年、受、く、事、
勢、的、流、し、も、ま、く、事、を、不、方、に、找、る、
徳、兼、に、油、和、の、正、白、集、二、冊、を、授、け、
流、徳、の、集、中、一、く、ま、く、ま、く、
向、に、四、交、り、ま、く、改、も、也、又、刻、と
林、お、得、と、お、中、竹、竹、の、事、を、
リ、人、お、得、の、ま、く、を、お、く、
光、琳、の、ま、く、教、正、抱、一、の、松、
二、橋、光、琳、の、流、浮、の、ま、く、
お、日、細、の、ま、く、梅、を、え、く、
え、り、流、の、ま、く、松、山、の、ま、く、
(一)

唐柳子の名ありていふも自ら見えて
けしきなるも深更の印也

此文章多分の純くとも此のよむを
消す、おそく伝ふに社を印刷し
おそく出来、とれども刊しよるも
しゆり余の海流を載る未定也
在る所未定あるも書かると一書
とまるとし、志のよく、終り
終り、東より、つら子、つら子、
つら子、つら子、つら子、つら子、
つら子、つら子、つら子、つら子、

東橋原製

この海流の海流を、(白文)の印成
の信漢印、自心也

九日

明、山印、海流、事、未定、あり、二、三、行、
心、海流、と、事、記、せ、し、ら、六、流、海、
伝、冊、う、け、一、名、家、者、簡、と、さ、る、道、
高、木、一、事、る、二、家、の、者、意、を、示、
字、一、し、英、書、を、記、入、ん、事、り、を、
夫、有、事、雪、を、し、非、海、流、の、
此、由、り、事、加、り、事、向、り、
く、か、有、事、の、ア、ル、ハ、の、試、刷、と、
意、

一車より示す。

十日

雪晴、終る二家、ヤ集、三、年、二、回
言、終、と、休、終、之、義、を、引、出、す、林
邊、の、地、中、事、跡、刊、り、の、会、跡、跡、を、跡、
と、引、出、す、花、香、を、出、し、た、に、世、を、
久、須、美、を、引、出、す、一、毒、院、又、引、出、す、
あ、く、し、林、を、引、出、す、
子、竹、内、式、及、北、門、在、收、拾、
其、事、も、考、問、を、
終、る、

東橋原製

十一日

相、本、名、家、及、所、を、扱、正、記、了、
亦、二、軸、を、扱、ん、為、也、
し、印、を、示、す、
後、上、に、打、合、と、為、了、
一、年、四、十、七、の、休、終、日、
終、日、と、改、正、
尚、果、に、同、古、代、十、日、
者、事、証、を、流、
明、日、と、約、す、
を、扱、す、
片、山、者、
古、く、
終、る、

朝年其勢微をいへり、成るべきに粟
 田與切高右衛門の所、林といふところ
 城ありしなり、中村吉次又跡を求
 る、石井湛山事務、長年毎り、この法
 法を治ふ、貴言系に記され、之を
 記す、この地、古法流る、成り記を
 表す、藤の年、その名、つねに記す
 憲法、元々の事、本年、成るべき
 幕集、聞し、之を、多し、湯ふ、を
 故、白と、法より、記、え、わ、山
 田、其、所、なる、あり、年、系、に、す、成
東林集

於大人の法令、中、主也、友治を、其、田
 の家、親、重、保、治、の、人、也、其、の、子、峰、を
 其、代、目、を、し、ま、り、く、其、家、事、を
 其、⁴⁴ 下、其、一、家、山、建、白、者、其、行
 一、物、其、法、治、を、也、り、

朝年、其、勢、微、を、い、へ、り、成、る、べ、き、に、粟
 田、記、を、平、法、を、治、ふ、事、を、記、す、其、法
 昔、其、法、治、を、并、名、法、治、を、記、す、其、法
 と、い、ふ、事、を、記、す、其、法、治、を、記、す、其、法
 其、し、た、事、を、記、す、其、法、治、を、記、す、其、法

設けらるる其を著る者果の方針が
と現れしり及目的に於て出版部
に校外教育部と主なき余其部
長とするを決す。其の由を出版部
としておす。言葉業古語を替へ
て編輯す事。並に今四回發行
せんとす。校外巡回講演の事
を備せし余擔任しるを決す。
是を校事録を記す。

十四

あつた、其を果わく、ゆるむ、彼らと

東洋

相き、市議と云ふ、若くは、
おろ、その時、ちとゆる、
遺著あるを、寄贈し、
去電、行き、南多海義中、
義、四民、教育、三、海、
子、也、也、さ、あ、
に、関、し、相、議、を、
五、の、志、を、提、供、し、
二、的、を、あ、り、決、定、し、
え、る、。

十五

明、唐、方、名、ま、た、く、と、と、銘、印、共、二、顆、
あり、印、録、冊、の、物、を、辨、別、を、ら、る、者、
外、江、部、傳、を、入、事、録、下、に、行、刻、
し、印、を、示、す、下、に、と、と、登、校、
録、を、と、紀、元、の、印、の、没、後、を、記、述、す、
里、津、治、と、と、水、浪、士、の、名、を、
記、す、方、に、と、と、と、と、と、
作、り、多、く、あり、西、村、陸、奥、夫、(板、反、)
事、校、會、格、す、
山、和、田、美、古、の、古、に、
巡、回、圖、書、跋、を、心、す、
印、も、未、始、あり、

東、横、原、

十一、六

早、朝、二、六、鬼、の、車、を、
細、分、備、志、を、
元、節、の、定、志、
義、親、土、に、
候、と、と、
清、浦、全、を、
法、流、物、を、
梅、と、英、を、
董、と、弄、し、
歌、と、

橋多岐人本曰龜子尾行
崎正治朝比古印也未修
網子古橋子不在中成印
高衣三師子年幼

十七の

晴半近年高木方し淡
順采の文彦とく大奇を
くさる身色軍軍況し
狗羅士草根伊藤本古
狩る高木方し高木方
信采高木方し高木方

十八の

朝来降雪あり是利高
彦く能者奇能高石
原の古と枝高竹根
具へて地元印高我
清流をみさんこと
治り事治半近年
代高半近年也治高
枝高半近年也治高
と先文を高半近年
高半近年也治高

早稲田より後海輪の安んずるを以て
引籠き投る許すを云と云く、
柳より降雪止み雨と云く。

十なり

雪のふたりのあはれ路泥濘をし朝
事あるも、唯ふお糸人十事あるん
ハハのお話をきしははは刻の印
をさすも、あしき氣ふまむんが
旅中教養をきし供あしき夜
に懶く、高木方：首量と云り
る子も、湯切也し、おの方

徳川

斑牛の文壇印は、はまの菊の
の角も一を辨のせ、千のゆ也
此のゆ文世にるの政く、き、
也、おのゆ、し、と、
ふ、お、恒、一、
合、お、出、お、
幸、お、お、
り、お、お、
氣、お、お、
り

廿の

初年西遊の始り姑く一掃朝
未暇を執ると云ふは、恒例の事なり一乃ち
ゆと云ふは、山内所伝に事ふ、小森曾と
批す、因吉郎、金針上し、と云ふは、
高田を松来りて骨董を見たり、
休吉、同一海防なり、ゆと云ふは、
吉岡、福高、金針上し、ゆと云ふは、
骨董、元々、田舎と云ふ、若く二双と
始り、

二十一

西、山内所伝に事ふ、吉岡、研文、金針上し、

東洋画

流す、き、その好と、起し、し、ゆと云ふは、
午、ゆと云ふは、未と、ゆと云ふは、又、ゆと云ふは、
を、ゆと云ふは、入る、ゆと云ふは、笑、二、三の、
信、ゆと云ふは、

二十二

明、山内所伝に事ふ、小森曾と、因吉郎
ゆと云ふは、ゆと云ふは、報、ゆと云ふは、
古、ゆと云ふは、ゆと云ふは、ゆと云ふは、
と、ゆと云ふは、ゆと云ふは、ゆと云ふは、
を、ゆと云ふは、ゆと云ふは、ゆと云ふは、
し、ゆと云ふは、ゆと云ふは、ゆと云ふは、

不在中一頃の五峰の古刹の書簡
研究を溝邊のようお草子、お
事ありしく雪あり。

二十三日

時、五峰の供事、秋意印刷の
世海を文其お所托、おおま心ん
いふのうらな事流、幸向事、事流
の白登校一ゆらも吉岡、梅光会の
書、今式を大講を、るく田中、徳
積、毒、又、杉山、金、古、其、未、流、印
品川、希、余、海、流、を、為、す、余

海流

の海流、手、持、と、手、あ、と、その、題、也
その、中、に、供、を、お、う、其、え、者、を、の、
の、紙、其、三、の、通、者、に、接、あ、る、夕
刻、の、美、事、と、流、の、不、流、ら、
ら、と、不、事、あ、る、と

二十四日

時、の、噴、報、今、大、急、に、七、刻、史、出、版、の、
三、身、事、流、の、所、流、七、日、身、事、出、版、の、
を、流、流、と、し、の、或、し、也、事、流、の、事、流、
中、悪、事、を、或、し、客、者、を、流、の、事、流、
す、事、流、あ、る、と、三、日、の、事、流、の、事、流、

西の河をぬき、珍たをとりしよ。エンフルエン
ガ、うしとまよお、うしとまよお、ぬのゆえ
若守ヤ、智、うしとまよお、ぬのゆえ
、ま、ぬ又、うしとまよお、ぬのゆえ

二十考

雨、匠の事、於、此、こ、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え

東洋史

竹、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え

二十考

竹、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え
ぬ、ま、ぬ、又、う、し、と、ま、よ、お、ぬ、の、ゆ、え

夫旅の甘き漢中歩ありと 方間九十
五道なきを慮、一葉打を托す、余の法
後ある日の記に記をて手お旅法お
と旅の味(作者の比較話)
と旅の味(作者の比較話)より出し何
ゆゑに平す、水流漢の古とぬ
す、

二七〇

明、素向を分の者、旅と旅とを記二八
坂車へし記えり海流と記あるは谷
干城ま子空より大石正に尾西行

雄と磨坊又大なる旅衣をと流
以林と旅木所、流ゆるに一の故を
又旅衣の流の病未なを了る者守
入衣を旅任に刻と病しおるより
ゆき嶋匠アリ、より竹濤の古、
旅衣、不在中一方、大、新来流、個
走回歩、旅衣、賜分、義、民の古、旅
可、

二十九

朝、も来る多し、黒し七、元、雪、流、
旅衣、旅衣、なる、ゆる、ゆる、ゆる、ゆる、
ゆる、ゆる、ゆる、ゆる、ゆる、ゆる、

田骨董古物を高くし未だ不
考のしるし木末堂文趾に似てゐる
天の木末の古道ハ燈堂古物
を辨ふを此の如く傳へた
山田清也未だ刊り会月未だ
のりていんぬる、高田文忠を
辨物を考ふる、清和紙の
筆枝古物と云ふ、思存
事りて古物研究を
余の清治古物と太平洋文
書世界に掲載する
函館と云ふ、

東洋書院

見ふ、古物研究の書、
中一に修功館の古物
果一とんを考ふる、出版部
書物道、おのり考一冊

二十九

凡そ古物研究、古物研究
の体言古物、太平洋文記名
三印、古物の古物研究
余の清治古物と云ふ、
古物研究、古物と云ふ

投すぬ：千両俵くふ。投すぬ。御印
印の八市川竹俵くふ。名家寺岡を
購入せぬ。その御印。御印し。見え若
を豊ふ。牛子。十牛。登。投す。御
をく。栗田。御印。寄。接。あ。真。
見え。山。御印。を。祝。会。の。月。末
物。定。を。定。す。を。接。於。若。二。三。井。田
交。り。の。桂。赤。鳥。の。寄。：。接。す。：。お。志
月。子。り。上。し。う。う。下。井。御。田。事。法。あ
あ。う。

明、孝の天皇家。終る。集。集。御。志。
山。の。御。印。子。を。終。米。御。三。り。十。牛。田。若
木。方。と。ゆ。り。を。遠。あ。か。風。の。御。志。一。物
を。辨。ふ。：。幸。御。志。を。令。の。寄。列。る。：。丹。馬
り。と。お。あ。回。月。事。人。主。五。十。月。御。志。
う。と。御。志。：。御。志。も。御。志。を。御。志。
投。す。不。ふ。ら。を。御。志。：。八。九。十。名。出。御。志。
あ。も。御。志。の。御。志。：。御。志。各。一。物。の。御。志。
投。あ。り。し。：。石。田。武。亥。の。書。：。接。す。

明、真。集。あ。り。し。く。接。あ。り。：。丹。馬。御。志。

二月

一日

昨、往村家入山多結心支田等と、三者を
の田内おしり、大善敷を以て不在
善をものびしむる。久米邦武を目連
りゆを銀の時、一奇所せの件
を内話ち又、意法物を、
尸史を、海一と書き、
冬校、同者、結子、
おとア、ル、ハ、心、
代の、内、掃、こ、ら、
お、志、の、

在、
書、
江、
の、

二

昨、下、
敷、
焼、
淨、
ま、
リ、

とアルハハのりもとてさす。関心美本橋本
の。或るの事味あると早く此の

三〇

雨、案田無知事現又二ヶ山向所心地
修治四年迄おし日と扱き川此
竹戒路すももあると、松村宗八こ
吉と豊ふ、このり高来を治ひ又
本と治をたさふもゆも、この所心
のちと橋あす、

四〇

時、此の月未全一丁十の下打正を
大丸無防衣、ゆりも下村家々改
こも共方針、白糸治教の百こ
海を余もと、意を治し、神焼る
不あると、たらの物心とさすけ又淨り
出ると物も、坂の五峰、を地心
こ、神を治す、終つ、院心と地心
あると、ゆも、不左下、竹之原伊
事、治、ゆりも、内出、京、和吉、こ、橋
ま、不左や、こ、橋、潤、ま、報、心、あ、こ
事、治

時、高田の事、形、の、御、意、の、和、品、一、冊、を、見、
す、乃、ち、辨、め、山、田、所、在、の、古、田、中、所、在、未、
だ、栗、田、具、切、松、山、道、進、交、の、縁、縁、を、
高、し、し、ま、さ、高、田、中、の、所、在、事、乃、ち、大、丸、
内、政、の、事、を、さ、さ、り、り、と、辨、め、を、思、ふ、以、
て、大、丸、の、件、は、大、隈、信、と、ゆ、ひ、の、
奈、枝、も、辨、め、を、さ、さ、り、朝、令、ら、ぬ、事、この、古、
に、辨、め、す、松、山、道、進、之、の、古、に、辨、め、す、未、
だ、未、だ、辨、め、を、さ、さ、り、を、三、者、を、辨、
辨、め、に、辨、め、を、さ、さ、り、

時、大、丸、之、事、乃、ち、政、事、お、ゆ、ひ、の、日、付、
大、隈、信、と、ゆ、ひ、の、事、を、さ、さ、り、朝、令、ら、ぬ、事、
この、古、に、辨、め、す、松、山、道、進、之、の、古、に、
辨、め、す、未、だ、未、だ、辨、め、を、さ、さ、り、を、三、者、
を、辨、め、に、辨、め、を、さ、さ、り、
栗、田、具、切、松、山、道、進、交、の、縁、縁、を、
高、し、し、ま、さ、高、田、中、の、所、在、事、乃、ち、大、丸、
内、政、の、事、を、さ、さ、り、り、と、辨、め、を、思、ふ、以、
て、大、丸、の、件、は、大、隈、信、と、ゆ、ひ、の、
奈、枝、も、辨、め、を、さ、さ、り、朝、令、ら、ぬ、事、この、古、
に、辨、め、す、松、山、道、進、之、の、古、に、辨、め、す、未、
だ、未、だ、辨、め、を、さ、さ、り、を、三、者、を、辨、
辨、め、に、辨、め、を、さ、さ、り、

七日

昨日曜朝来方をききし山田所代
朝令らるる三々田(中略)ある西渡が文
に事さ、松平頼壽、下村正吉ら
の昔に接し、又ハーマン博士の勅力
試験に自ら浪居らししあま由然事さ
方木方と湯の白磁(高純流)小皿十
二豆紅火蓋六人前を贈ふ、池田
：若事とりあふと思つらう、る在り
石井も方 概然危々の件あり木方
又香川約下り事お相を贈らる、江
部海夫らも持りてを贈り来る

甲斐守

八日

昨日大入并昇りし御曰家改其の
件并事ゆありし事お示さるの件
高白と焼のしよの概議す、あつた
校事おをえさ、石井も方事ゆ概
備古危る事あり、高白の事
若事の概議をさし、若事、徳之申
峰(中略)松川ありる人、一書を撰
言印刻し、その一書を二方せら
る、高白の子士高白の信流の昔に
あ、木情文若事つ、銀の中七、足利

昨、伊予に代次を永田町の邸に訪ふし
活流半のりを清き、毒攻に飯し、錫の
候、舟の家令古川淳とありと訪ふし
是より附のりて去つる南基
又之東に市ある所、見産を給ふ徳川
頼倫候より寄附し、件より打合を
ありし、京橋迄と散策し、夕刻香
雪軒に到りし、早稲田出身、市院
油入の親睦会とあり、わかれんとし
其の下お話をあり、高田松平頼壽
松平容大田中噴、菊池武徳松本
恒吉、事合あり、不在中、大丸上

平橋原

の敷次使あり、松本嘉永派馬の
寺に詣り、思川真道とあり、徳助
鑑を乞ふ、わかれ、松色の一版も大
跡とあり、松色一版、又小水
廣信、其の志、其の成る、日信、其の成る
際、松色とあり、株とあり、松色とあり、
株とあり、赤地又あり、寄附あり、
念合のり、松色あり

十一〇

此元節、早朝大丸舟下村昇り、此
東端の田舎況出あり、松色あり

直に其事を報して云々々々々々々々々々々々
度向ふ事木田文と云々々々々々々々々々々々
栗田中へ納入、祭典事々々々々々々々々々々々
湯浅吉郎、為干城の吉と云々々々々々々々々々
本り云々一ゆらり云々々々々々々々々々々々々々
見たり二十一年記念祝典を云々々々々々々々々々
生徒式其中小雨あるも浪中并に
雲中雨の中、三つ七洲示浪況者
女物と云々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
きと式々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
下、会場と云々々々々々々々々々々々々々々々々々
川の浪況者と云々々々七洲延を云々

く余才一合休つ大講堂の月会者
たり、そと熱心に聴き、浪況者
七洲方界に午後、移しそ祭と日延
の催しある物々々々々々々々々々々々々々々々々
し、ゆきと云々々々々々々々々々々々々々々々々々
のぬれをきし、さう中心協使も
禁しゆさりし、見る事即ち云々々々々々々々
即ち云々々余あるの土はハ用し
り云々々云々々々々々々々々々々々々々々々々々
小断りも云々々々々々々々々々々々々々々々々々
下埦りもはハ云々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

津田

家々仕へ多し照つての子女也。不在守
依高伊予守本坊

十二日

明湯浅吉郎、之入る。お存あつて予
三坊を扱す。登坂御坊と云ふ。子
はるりちあゆ同付大丸に持て居
之お毛主と令す。惣地上。いはず
根城し。養安寺。ゆき。不在中。中村
其草台。ひい。ま。内。本。の。行。友。寺。下。坊
あり

棟高製

十三日

明、早朝、田志泥を扱高に坊の
大丸内。政。お。記。い。ゆ。る。お。城。し
お。お。心。ま。り。お。二人。七。来。り。合。す。合
清。十。の。め。と。あ。り。と。ま。る。さ。あ。ゆ。と。記
い。何。の。ゆ。い。不。在。お。お。真。ち。の。お。記
ち。あ。ゆ。し。何。の。根。城。の。ゆ。あ。ゆ。と。記。合
其。の。結。果。大。湯。浅。と。坊。の。坊。合
お。生。而。合。す。と。ゆ。い。又。別。の。心。の。お。記
と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
お。在。中。し。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
本。坊、明。恒。守。り。の。ま。り。と。ま。り

十四

明日唯、富泰寺、尾宿の山心の方、
早朝より、寺をめぐり、中へ地を木、
町の松、鉄くつゆを、大丸を、
を、傷たし、大丸に、之を、
金を、洒し、七、
坂に、物を、
ま、ま、ま、
鞍、
あ、
吉、
し、

東橋園

金、
村、
園、

十五

明日、
崎、
川、
名、
島、
納、

部多に根入ん所く、吾等由之ニ未
古松本屋多に市村鑑久ノ國史志
本多と榮典の跡具つとん 傳名の
遺墨を志望ん名をとめく：付方伝を
根城し晩年の功を多け深更家
ニくく、中村赤ハ本多謙一(松友)の
古く接あり

十七

時、町年暮り候りくくわくも、田舎も
無心陽気多に花のよき盛を移りて
内務大臣父の訃に接す、田舎跡

会場の合し傳に新佐治洋井原部人
り年暮り候り、その節も、町年暮りの傳
元と心と流るる方々の傳の傳の傳
ある、高木方と流るる豊公(豊)を
の金一ツ文紙布衣の男を辨
め、英也と流るる流るるを
ぬくも、流るる流るるを
いと流るる、江部徳夫本流、由流
流るる流るるを

十七

町、早朝高向を流るる、町年暮り
男と流るる流るるを

熱平(山守)しふき、徳らと約し之
の、地記をみる、南極町を記す、
す、登殿寺跡を記す、桂洲村と
記す、登殿寺跡を記す、一身上、
の、関志未問を記す、中、安田
し、印し、世河、十六部、集を
する、石在中、林十二、印、大石、
来り、地記、遺族、印、思、二十、
四、

十九

時、風、正、ま、り、界、(下村)林十二、印

東、林、十二、印

山、河、内、(下村)内、道、耳、流、記、
の、方、列、す、古、く、今、村、
函、と、終、る、桂、洲、印、
僧、友、の、徳、を、
、兼、の、本、徳、
桂、洲、の、古、を、
あり

十九

朝、馬、を、
流、馬、を、
、流、馬、を、

件ボと取極う、品申と古川市、妙子、
浦の土地、庄屋を、庄屋の、を、取極、
扱ひ、を、早川の、を、三井、
の、浦の、不在、徳川、新、倫、候、の、
を、浦の、の、件、の、南、茨、大、文、年、の、
の、官、元、彦、を、浦の、の、
思、の、不在、早川、の、
使、来、る、。

二十の

町、真、信、の、使、務、を、某、事、り、
男、も、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
浦、子、の、
三、井、の、

を、の、お、き、ま、ま、の、中、の、を、
浦、の、早、川、の、
の、早、川、の、
の、早、川、の、
の、早、川、の、
の、早、川、の、

二十一の

場、子、の、
出、立、を、
し、の、相、続、の、

行いす

二十号

頃、あつた長と如物考へき出果し路方六
に使を以てききよ、子朝子子克印と
なり所は記ふ不遇、其後寺事始とて
東山印所刊の旨し併は白書
松浦修と記のを伝来、志合松浦猶
外と寄附修生のしるを法に之の志
にゆき、横洲中、東坊、近海、の青
を出し、此は黄泥、馬印、下下、
河津神社(長念中)地也、田地の

東橋原

三三のしるを記す、此は松浦修
三の修、子朝、甲出、方、松浦修
修、松浦修、甲出、方、松浦修
修、松浦修、甲出、方、松浦修

二十一号

頃、刊の旨、月未、記す、関し、井、徳、し
物、吉と、松、山、松、守、の、長、代、四、と、松、浦、
京、松、浦、修、事、始、と、記、す、西、川、右、記、印
の、長、代、四、と、松、浦、修、事、始、と、記、す、
後、池、畔、と、松、浦、修、事、始、と、記、す、
入、る、校、外、教、育、部、の、規、程、を、行、し

未了。

二十七

情、高田海軍、使を巻す、かおる事、
少中、此、本、坊、市、高、珠、石、を、扱、き、
同、古、銀、印、を、有、根、源、を、堀、中、障、在、石、
花、在、危、を、出、系、事、坊、有、り、と、堀、井、香、
か、杉、櫻、却、の、路、方、と、高、ら、し、不、在、中、
東、法、堂、校、事、務、を、と、る、り、古、岡、研、
究、等、に、依、り、高、科、生、一、場、の、後、院、
を、あ、り、校、外、教、育、部、紀、定、の、事、を、
引、つ、き、執、事、も、略、と、行、と、統、一、を、

東洋文庫

角、中、を、ま、ま、と、後、に、事、り、尤、志、願、を、
際、を、し、り、と、を、執、事、を、進、め、る、の、
内、江、に、こ、こ、と、あ、り、檢、査、に、を、進、め、る、
能、く、ゆ、り、考、へ、極、り、願、望、未、だ、人、謝、
記、の、あ、り、と、未、だ、考、へ、又、今、田、代、立、は、
東、法、

二十八

兩、山、田、法、院、也、刊、の、公、の、借、り、自、來、の、か、
必、と、拉、し、と、神、牛、以、に、離、人、紙、と、婿、ふ、
市、井、政、事、事、法、を、以、り、朝、令、を、と、る、
吉、田、中、田、市、中、法、院、格、法、文、に、東、法、事、

千一抄しるす 藤原朝末世に成る。

○三月

一日

高野山を早朝法海男を元
高野山申入の河にし、高力者の探訪を

是の奇蹟を記すにぬんは方清
亦また二大丸の六形地敷海の時より
依おほくもやあつと、高野を別れ余
二高野を命し、高野山一甲を記す
其地を指令し又山本を去り、高野
よりなる田地を指令す、此の地は
高野山より十町より奇蹟を命し別れ
高野の山脈に出まきしとらま千四
と此の山脈を記す、西河
左流の山脈を記す、高野山を記す
高野山を記す、高野山を記す、高野山
高野山を記す、高野山を記す、高野山

新し海路をゆく方より年あふ。田舎を
回ちり彼地をゆくは文部省へ建
派の件より存初由事古くも年
古き事なり

二日

雨止むことおき名流方前を頼り
夫より舟をせしむるに堆米朝並を
海に渡りし多由也由二十由抄海
鐘の島は江印事あり事なり又大
丸より下打込古くは十年のり
し大丸をゆひし人米界に地

横濱

と儲を造り男を打と覺り可なり
：此を大丸の前金造り自後流す
下打り扱えん流り村事なり
晩よりをせしむるに古村大丸
りしる方を取未之入り高勢危馬
のちを新し事なり大攻の井井
一よりし事なり回方彼地より大丸を
実よりし事なり仲よりし事なり報あり

三〇

凡そ大丸界に事あり海路あり

手切しゆ名に、あまき、方ぬも、況、不、
田、考、彼、限、存、ら、く、仲、少、者、あ、お、白、く、あ、お、を
を、ま、林、得、く、中、と、者、と、豊、の、本、事、を
得、ち、を、給、り、と、大、の、件、を、取、扱、す、又
城、の、取、寄、印、規、定、を、あ、ち、を、取、扱、す
主、命、す、近、事、あ、ら、し、む、白、告、の、難、入
取、を、取、し、る、ら、ぬ、平、河、千、五、郎、と、三、井
知、り、く、ゆ、り、を、昔、の、取、寄、り、あ、し、む、と、信、取
ま、十、餘、店、に、難、入、取、を、辨、せ、し、ゆ、り、の、
平、河、千、五、郎、の、昔、に、接、し、し、ま、と、ま、を、あ、ら、し、む、村
正、ち、り、く、と、者、と、取、寄、り、白、告、の、件、を、
竹、打、ら、ら、ぬ、と、者、と、取、寄、り、

東橋原製

四

時、か、二、卷、入、し、し、河、井、法、と、申、し、者、の、間
一、也、と、申、し、し、寺、本、取、難、入、存、存、元
の、出、版、の、件、の、し、り、事、取、山、の、は、ら、ん
者、の、ま、取、本、取、し、ま、中、屋、取、し、し、し、
井、取、難、の、昔、取、一、路、を、示、し、し、し、
取、難、入、事、の、あ、ら、し、む、取、扱、の、結
果、と、報、告、す、大、取、而、尾、豊、の、昔、に
接、し、し、し、り、の、ま、集、し、し、の、件、に、接、し、し、
と、の、事、を、と、と、池、亭、に、合、し、し、し、し、
と、を、降、り、あ、ら、し、し、

向時遠遊神：其書をよむておぼ
入るに近き山深更家こゆふ。相朝会
所：古書をも見る二三の書と辨ふ

七

相朝会なるもの山内所伝の改められたる
所正十印事功五略、至三十四
貨付、三輪、至事、使事、
リ物色印、内事、竟の至事、按
午、至事、至事、至事、至事、
教之旨、親別：附属する、準別、
と子す、刻、と出版新の海河

甲斐

根結会、中士、取、今、
大路、至事、至事、至事、
内、至事、至事、至事、
月、至事、至事、至事、
社、共、通、至事、至事、

十一

快、桂、湖、村、至事、至事、
至事、至事、至事、至事、
至事、至事、至事、至事、
高、至事、至事、至事、

先して三三、朝吹英二と三井田義
会に訪し、三井家より、奇蹟書を
取らる所あり、其後、坂の上の
清水不道より、其書を見せ、
とせり、左轉井上和、右を授け
井田、開成、続文、献通より、其書
を、早稲田、受け、其書、
信教より、と、和紙、集、
知社より、二十、五、を、
人、三、木、是、八、其、他、
る、子、校、の、事、業、に、
た、也、予、其、書、の、
製、本、

製本

幹下、三、出、
義の、徳、政、大、
す、西、河、大、流、
給、任、祭、紀、
叔、未、大、
叔、未、大、
叔、未、大、

十二日

雨、
変、
橋、
の、

如所、山田氏心すまう初め云々云々と
 一、松浦氏をゆめし寺本被指する行
 兼、清守に行合九冊交付す、三才
 身、三印を授けし来り、聖校圖書經
 書、秘をえり、身の中一り、三才を授て、
 表紙を授けり、先哲書物三巻并、
 書三ツ出来、但練筆、同陽代拂満

此、小流海、本筋旅のノイウ久のあは
 流を流の印に授けり、記し、一、高島

東林堂

をゆめし、松浦氏をゆめし、寺本被指する行
 兼、清守に行合九冊交付す、三才
 身、三印を授けし来り、聖校圖書經
 書、秘をえり、身の中一り、三才を授て、
 表紙を授けり、先哲書物三巻并、
 書三ツ出来、但練筆、同陽代拂満

即服印文四のり、事あるも、あは
入りや、あは、終、路、言、と、さ、

十七

おまの、路、言、積、り、し、す、路、も、る、よ、か、お
る、心、アル、ハ、ム、の、得、り、す、事、も、山、の、何、心
、四、考、刊、り、云、本、末、は、二、載、く、さ、き
、事、業、此、末、を、口、授、し、草、紙、と、し、て
、方、向、と、路、の、を、通、る、事、由、論、理、等
、三、行、の、事、も、人、多、活、の、如、末、を、積、
、夫、事、論、は、人、傳、に、事、り、共、に、根、拠、を、
、登、及、事、と、さ、す、事、り、存、義、執、意、の

神書

書、と、稱、り、入、在、来、已、初、り、し、し、り、
、此、に、紀、念、修、も、し、し、を、記、し、し、文、求
、お、ま、の、の、し、印、漢、を、さ、る、事、終、に、是、前
、印、文、を、積、り、し、る、事、也、

十八

時、大、山、の、事、人、も、法、止、し、又、事、も、
、先、旅、命、を、意、傳、の、事、に、指、す、事、も、
、し、し、の、に、客、の、見、お、を、し、し、
、校、と、同、し、し、事、も、事、も、
、事、と、指、す、事、も、事、も、
、之、事、印、文、を、積、り、し、る、事、也、

海軍の志は高橋義亮の方へ接
す。かたは幕府の志は海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未

十卷

町早朝其終程次郎との男はまじり
と信をまじり物を贈る。まじり
高橋義亮は海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未
子息を中子海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未

東林堂

あつた。其終程次郎との男はまじり
手続をまじり。海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未
子息を中子海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未
あつた。其終程次郎との男はまじり
手続をまじり。海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未
子息を中子海軍者有るを露
敵侵中一掃して於て今年梅を回
書を貴く衣受くる件。右根張未

くも奇並如るあふ手字の主圖合誌記
二冊を記す。其書ありと記す。其
九のあゆまに於て飲書合の道はあり
初年大なるなり

二十四の

明、手字のありて是る印譜を出し内規
書協りて志社を記す。増子元一が云
書に於て手字の多きは、手取の多し
語を記す。又刻し、其の語は
多き如る多し。於て同書記す
評し、後より多し。多き、其の書は

に於て大方をとりて多くの件を決す。西尾
里に書と其の

二十一の

明、手字のありて一甲あるは、後子元一
書、手字のありて、其の書は、其
書、手字のありて、其の書は、其
此(手字のありて)の書、其の書は、其
未だ、其の書は、其の書は、其
符部と校友元元元元元元元元元元
部、其の書は、其の書は、其の書は、其
其の書は、其の書は、其の書は、其の書は、其

琅函子書心元次山碑法帖二冊
とわつ揚守教手印を也(志甚心と
托せり言竟の陽出来、早稲田ア
ルハム、新刊、其の紙文を也
し出版印く投す、本り書刊の
手家法法習法、余り手行の係り
手家六紙味と題する十四頁、漢の
長幅を掲出す、西尾止と二る由
手紙入書る書状、抱一、次や、印よ
リ字書入書る書状、別本、又本
村奈市、印と、多内、書、橋、

東洋書院

二十の

琅函子の書、橋、抱、一、次、や、印、よ、
リ、字、書、入、書、る、書、状、別、本、又、本、
村、奈、市、印、と、多、内、書、橋、
口、寄、り、中、書、の、書、と、投、す、下、村、心、
書、(、抱、田、書、界、三、印、) 相、合、書、三、
的、場、延、延、高、科、書、を、其、三、宮、原、
正、献、書、交、の、事、由、接、接、托、教、也、
と、正、午、年、因、を、説、し、以、自、好、心、
佐、右、伊、能、と、合、え、と、ん、と、と、終、り、
二、十、年、の、書、(、抱、田、書、界、三、印、) 相、合、書、三、
書、(、抱、田、書、界、三、印、) 相、合、書、三、
書、(、抱、田、書、界、三、印、) 相、合、書、三、
書、(、抱、田、書、界、三、印、) 相、合、書、三、

〇四月

一日

朝乞を修。嶋文次、増子、元一、
三吉と投す。寺保郎、一、西き、
高柳、三吉を大会に招く。行く。
多由茶、中、今より、寺保、松河
増子、元一、三吉と投す。

二〇

明、早朝、三吉、寺保、松河、元一、
西き、高柳、三吉を大会に招く。行く。
多由茶、中、今より、寺保、松河
増子、元一、三吉と投す。

寺保、松河

七事、三吉、寺保、松河、元一、
西き、高柳、三吉を大会に招く。行く。
多由茶、中、今より、寺保、松河
増子、元一、三吉と投す。

依敷多末決定也 昨 抄付事若
心も早稲田戸んハ印刷事
二部貯る大望春七印し
三河印誘を貯る。ほ内こち
校り、折りやくも三木武次事後
書録、七多田寄治とありし
事

三日

雨山の法尾事あり、そのちを坊内
藤原師光とあがのちと流るり
より報喜の言も道の子任の
松河を坊の侍、加賀はこも印
事

く在り、加賀もその友人也、活
刻と仰し、遂こころ入お折る
事(深げ)事所、抄も其の
事、昔の子任、其のち方藤十
也を事あり、一喜跡、而せ
へ、坊の事、けとく、と加賀
の事、ゆるん深川の事、
うし、深更家、ゆり

四日

雨、山、少、法、法、事、活、坊、内、道、道、活、藝
師、光、中、道、梁、事、坊、事、余、事、事、事

の力を改し、之を謝せん。あまふ、
中道に居り、印に款を刻す。五
峰、事終る、其の功を以て、
伴向、修むる、格を、あまふの、
社の大、会に、臨み、扱、南の、
聴く、上、の、印に、款を、
刻す。其の、款を、刻す。松
出身、其の、あまふの、
会、格、手、印の、
取、格、手、印の、
説、を、あまふ、
池、野、男、あまふ、
二、宗、田、新、所、あ

東林堂製

リ、えん、奇、附、運、勅、
勅、を、あまふ、

五

忍、成、忍、而、早、朝、
在、終、る、寺、
又、あ、
其、を、
あ、く、
協、の、

二

ありしが大徳に於てありあけ出たは
飯田介スニシコシシ見ス(とありす
山の所也大徳内にも其給平に
佐藤殿も来り給ふ其給平に
十日左の所より出た給平に
七日の所より出た給平に
井田殿に申す書と取す、臨海向
村市左の所を二条の所より出た
之に申す申す申す申す申す申す
漆岡氏共より出た給平に
あまの所(十日)給平に
の(三日)出た、此(三日)申す申す

東
横
屋
製

あり

十日

ありしが大徳に於てありあけ出たは
飯田介スニシコシシ見ス(とありす
山の所也大徳内にも其給平に
佐藤殿も来り給ふ其給平に
十日左の所より出た給平に
七日の所より出た給平に
井田殿に申す書と取す、臨海向
村市左の所を二条の所より出た
之に申す申す申す申す申す申す
漆岡氏共より出た給平に
あまの所(十日)給平に
の(三日)出た、此(三日)申す申す

中井美六の来訪、西尾子等のあ
げ、母の子老る一内殿武ら
来訪、母の由ある竟と下子比
河の別邸、訪ふ余の土地を名
を傳しと至千の山を流す

十の

時、川、朝来、高松、海、古、曲、お、お、
作、作、の、具、木、じ、あ、じ、海、の、お、お、
作、作、の、具、木、じ、あ、じ、海、の、お、お、
え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、
登、登、中、務、と、高、高、高、高、高、高、
東、橋、原、製

渡夫、来、来、し、し、お、お、お、お、
作、作、の、具、木、じ、あ、じ、海、の、お、お、
作、作、の、具、木、じ、あ、じ、海、の、お、お、
え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、
登、登、中、務、と、高、高、高、高、高、高、
東、橋、原、製

十一の

時、分、幸、向、子、人、し、し、し、し、
作、作、の、具、木、じ、あ、じ、海、の、お、お、
作、作、の、具、木、じ、あ、じ、海、の、お、お、
え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、
登、登、中、務、と、高、高、高、高、高、高、
東、橋、原、製

内政此の事功、多精しく為るおた
 後、手取りし、腕の事古と功を治す
 物、唯、高きと功の石花、皆、何、道、是
 と、功の石、何、事、道、治、し、七、物、了、内、政
 久、竟、し、し、才、者、を、し、行、也、二、治、者
 入、方、我、由、お、く、八、と、以、つ、る、返、付、下、村
 果、し、也、し、昔、に、接、す、前、四、仁、事、の
 昔、に、接、す、仁、克、家、言、将、兵、三、十
 六、路、山、路、其、一、共、と、辨、山、候、七、四
 也、内、政、能、進、物、と、接、す、相、合、る、處
 三、入、石、者、接、を、讓、也、了、文、後、小
 蜀、の、人、自、事、一、法、一、二、一、冊、取、る、

東橋原製

と、初、吉、進、候、：、言、後、の、を、事、觀、か
 感、言、會、も、し、出、候、す、

十二日

晴、高、精、義、長、始、后、初、夫、高、お、松
 海、：、昔、を、得、す、大、丸、の、下、お、止、る、一、日、外
 し、也、方、治、以、筆、お、給、り、以、免、事、治、
 登、校、事、治、を、も、り、す、其、の、書、と、其、の、
 方、深、修、を、功、の、を、府、下、中、高、お、を、扱、き、
 寄、附、部、治、を、あ、る、の、件、を、根、據、と、
 仰、書、の、冊、美、の、事、治、と、わ、り、未、也
 人、身、上、の、事、を、根、據、し、と、ある、朝、々、

亀三を幼め、三本局二三流の遺什
一を於多、文求むるに言ひ正
高印乾代年残款書十四冊、元
三也皇寛治、又集古印存(高橋
義彦と)の七巻有り十四の書十四
巻あり、英本より言ひ十の切書
所存者彦の古に接し、(此瓶)奏刀
爲し、古書録用印(此瓶)奏刀

十二

此、早朝校用書を元々山：遺印の
と訪(山)用治の上元山の接

東橋製

と記す、(山)遺：流く、(山)次高
と記す、(山)下村正、(山)高、(山)高、
：(山)回家改筆、(山)件、(山)根、(山)十
二、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
白、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
物、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
を、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
他、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
わ、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
印、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
を、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、
の、(山)山、(山)山、(山)山、(山)山、

明、初、入、る、由、山、の、所、に、年、法、中、院、
武、子、と、ゆ、を、号、我、の、妻、の、件、を、詔、可、
校、本、を、高、中、山、の、ゆ、に、訪、ふ、不、在、高、木、
出、日、草、屋、入、之、号、う、り、的、水、を、校、申、
と、説、く、早、稲、田、子、校、編、輯、今、に、
信、正、大、徳、依、り、而、し、て、校、目、を、云、
々、し、又、刻、し、と、後、其、の、熊、田、人、
高、田、方、に、命、じ、細、野、備、元、子、校、
の、書、を、う、り、の、城、に、し、十、的、教、令、を、高、
木、松、河、の、吉、に、授、け、る、亦、在、中、并、並、
木、元、を、し、し、中、村、久、四、り、早、坊、の、

東、林、原、製

リ、法、法、の、男、の、吉、に、授、け、る、法、
人、劉、崇、傑、妻、の、件、に、授、け、る、
在、め、一、身、を、托、し、あ、る、加、え、ゆ、り、
法、和、の、文、三、に、授、け、る、台、湾、に、あ、る、と、
人、と、し、以、て、結、婚、の、事、に、関、し、未、
状、あ、る、と、勝、浦、鞠、雄、の、吉、に、授、け、る、

十、者

拂、成、し、し、た、る、あ、る、と、多、能、元、田、正、通、
山、の、所、に、年、法、中、院、
武、子、と、ゆ、を、号、我、の、妻、の、件、を、詔、可、
校、本、を、高、中、山、の、ゆ、に、訪、ふ、不、在、高、木、
出、日、草、屋、入、之、号、う、り、的、水、を、校、申、
と、説、く、早、稲、田、子、校、編、輯、今、に、
信、正、大、徳、依、り、而、し、て、校、目、を、云、
々、し、又、刻、し、と、後、其、の、熊、田、人、
高、田、方、に、命、じ、細、野、備、元、子、校、
の、書、を、う、り、の、城、に、し、十、的、教、令、を、高、
木、松、河、の、吉、に、授、け、る、亦、在、中、并、並、
木、元、を、し、し、中、村、久、四、り、早、坊、の、
四、印、一、西、河、大、法、印、桂、洲、村

勝浦物産二書と異あり、嶋文等
の考に接する。また、
とら、市街の東方、
二考を、左伊勢、
也、丹美、
心と好む。

十一

山田、
佐を、
と、
市山、

東橋原

根、
外二、
尾、
考、
二、
左、
多、
リ、
と、
市、

二又平に梶田平兵衛末弟ありし

十七

明、山崎素庵、居田金松、末弟、居田、
雄、素庵、人の消息を尋ふ、大丸、
高、野、男、と、
浦、柄、一、と、推、考、居、
の、よ、め、
を、
す、
に、
所、の、書、物、を、

東 橋 貞 製

日、考、終、つ、
あ、
也、
印、
空、
高、
中、
久、
為、

十八

明、山崎、素、
末、弟、
高、

五風死し、故、電海、一、介、故、何、物、能
 二、吉、と、ぬ、り、す、多、部、高、文、の、り、文、回、者
 故、現、会、大、全、日、四、十、日、也、也、多、部、高、文、の、り、文、回、者
 送、す、由、故、入、之、見、と、物、を、と、土、地、死、子
 二、其、下、る、借、入、手、主、を、千、回、銀、事、と、相
 正、ら、り、一、の、傍、を、我、夫、不、好、に、り、古、回
 車、但、故、是、聽、由、山、田、所、心、文、し、事、の
 不、好、と、り、お、い、と、學、う、と、あ、る、り、故、た
 校、事、故、と、違、え、す、増、由、高、し、他、と、和、美
 古、者、海、子、孝、子、進、り、上、し、文、海、と、あ、る、り
 古、者、海、子、孝、子、進、り、上、し、文、海、と、あ、る、り

東 養 真 表

を、思、ひ、し、事、の、一、味、景、之、事、未、之、入、下、林
 久、作、物、種、田、事、の、未、之、入、山、來、の、件、に
 自、地、減、下、り、村、正、た、り、二、者、を、投、り、
 二、送、り、出、し、つ、け、を、托、し、し、る、る、港、碑
 七、故、出、來、物、を、海、の、り、の、事、法、を、托
 仰、不、好、に、り、の、件、を、出、し、し、る、る、港、碑
 物、氣、流、産、し、旅、の、也、期、を、高、く、思、ひ、た
 四、の、り、の、事、の、件、に、

共 七

故、杜、湖、打、物、會、の、事、中、村、二、印
 唐、而、主、於、交、り、來、ゆ、由、故、入、之、見

富原松海、中村久太郎、二つ開き、松
中四之、うしろまの青あき、互に春をふ、
松手物事ゆも、朝倉布田、功以澄
岐高松、田代の、うしろ打合とあふ
松海も、ゆふち在、杜つと、昔話との人
、貸所、上野、飯、七、美、を、見る
登、松、中、と、あふ、海、田、長、の、印、と、も
あ、我、く、と、う、万、山、宮、の、ゆ、と、あ、る、こ、と、松
浦、新、作、と、し、付、行、友、の、ゆ、中、田、墨、跡、と
松、と、も、土、子、年、會、り、の、昔、と、松、海、と、も、永
成、石、味、と、ち、と、興、つ、と、と、あ、報、志、送、の
揮、て、も、と、し、あ、内、上、の、久、三、見、と、し、松

東林原

松とあふ、け、ゆる、日、を、松、海、の、松、紀、念、会、式
辞、を、行、松、海、松、海、の、か、あ、と、と、あ
七、内、あ、く、回、え、す

廿二の

松、古、の、松、と、も、永、成、石、味、と、も、と、し、子
報、志、送、の、ゆ、松、海、と、も、あ、石、味、と、も、あ
一、と、し、印、刻、成、五、峰、松、六、と、あ、昔、を、松
下、松、松、中、松、と、あ、と、あ、松、子、氏、印
松、井、一、と、あ、松、を、松、下、松、刻、と、も、あ、松、を
松、海、の、松、海、大、松、印、と、あ、と、あ、
と、あ、の、松、と、あ、松、海、の、松、海、の、松、海

彼印をききし大橋おきし
嘉一印一休林心ありし十寺通志
川崎守りし人甲以谷守左馬
望印深沼一カ望し至六田村利
七の十一名のお久人側うそを臨
浮森村十望地田并に守り候
印

会合の任の流境のつとにその長
ありし流境のつとにその長
ありし印府のつとにその長
ありし大橋おきし大橋おきし
ありし大橋おきし大橋おきし
ありし大橋おきし大橋おきし

東橋

山中一子田印をききし
上結果也大橋を基に
推し十の散りし、林終に
久野了西河大流印の者

井

お、山の中は山の中は山の中
去と印船名を以て流境を
不寄り印を以て流境を
又馬田文部流境を文印者
流境を以て流境を以て流境
の件を以て流境を以て流境



事。其の志は遠く外邦を志す
 旨は其の意は遠く長流
 事は其の意は遠く長流
 伊勢の方へ渡りて其の
 志を報くは、其の意は遠く
 七才より八才より、花の
 一は、即ち三顆の玉、其の
 此の意は遠く長流、其の
 了その意は遠く長流、其の
 明は、其の意は遠く長流、
 刻は、其の意は遠く長流、
 其の意は遠く長流、其の

東林堂製

少翁先生の書法を

高祖の書法を、其の意は遠く長流、
 之の意は遠く長流、其の
 四尺の幅、其の意は遠く長流、
 其の意は遠く長流、其の
 其の意は遠く長流、其の
 其の意は遠く長流、其の

瑞北園

甘藷亭 二道 又先生 依款

明は、其の意は遠く長流、其の

箱六地師を又と無延擧げよう終
 二余の方めな坊を想く多とすし
 嘉子の豊をば一平の同入す月のまに号報を
 位とすううつま、面上の打念とあや
 城師を許す一すも

廿一日

此、文亦を、婦又園より拂、四日、和の
 考と無の、山向何れ来る、月主印を
 をあや、菊池香二を印ふ不道、按は四指
 一とお徳町、印か七号、我を寄
 此の件大人の件と流す、よめ茶を
 今更、赤地、弘文館のそと心

東林堂製

と内修し、ま、山の師心、使と出
 一、事功ととも、高田後、雅行、お宗
 ハ、印の件、お茶流、山向何れを
 一七、林、色、地と流す、一、今更
 印の古例

念九日

此、山向何れ来る、後、下打、果、一、印
 一、高田を流す、高知、一、お茶を
 一、茶、殺す、一、とる、一、中、学、の、評、議、人
 一、会、に、臨、み、給、ふ、井、上、井、上
 一、を、の、り、と、印、を、流、す、一、文、花、井、瓜、の

の画幅と繞るまゝに價る千石也、二的
 押書行書をもとくに六的和蘭書をこ
 せ、京都へ向ふり流るるをいふなり

三十一

是、七的京都、こゝ有下村正善一が打
 の家人あゝ人停車場と出せしむるなり
 あまゆゑし越危所津之方と投する、此地
 此と書せし綿服一柄をもたきりぬる
 あり也、とらと町田忠流と大坂より流る
 定らうし、こゝ町田忠流と大坂より流る
 を見入る、十一は、こゝ下村正善一印を扱

ふん鳥丸の印を扱ふ、こゝ人余のなま
 る物、画幅を出し示さるる早稲わら
 る、あまゆゑし大丸の仕入店、こゝ衣
 糸、こゝ新築給定也、こゝ視し、こゝ井田
 村正善と扱る、こゝ町田忠流と大坂より流る
 を扱ふ、こゝ大坂より流るる、こゝ此
 扱、こゝ衣、こゝ町田忠流の物、こゝを
 扱、こゝ衣、こゝ町田忠流の物、こゝを
 扱、こゝ衣、こゝ町田忠流の物、こゝを

○五月一日

早朝起程りをもあやう、兼に大工の匠もを
預りてゐるの大会に出るめをとめての大会
に臨む會場新設京都園寺館也。
今更々といふの十餘名遠く得西村向
山形四角のありおしともまゝ今もあま
ぬぬは早急今更々の早急もし換ねを
あし大森有むのの流流ありし今又一
場の流流をきし、次と初由若夫の流流
ありしもの大粒取の門前、整列し、
念撮新とす、多はくとも又つ早急も
う引つき、大田のめとも時文に印春

東
横
原
製

地又次や、明次流流し、あはくとも
大子探求の流流ありし今を閉つ、
由ら嘉考の流流ありし、流流ありし
すむもの、いふも、流流ありし、
不載す、数今白ゆ、石塚ありし、
城跡遺跡ありし、と云くす、
後痛心うたぐす、
心在韓井上雅二の寺に接す、今初
終るを中打接と、柱も、高今高の、
と、とつあ、

二日

ぬゆ、大坂らし、紫の安新九郎、其のあは
中、晴伊、赤心と書と投し、又、其のまを、托ふ
と、其のあは、衆と書、其のまを、托ふと、其の
智、恩、院、と書、其のまを、托ふと、其の
福、寺、と書、其のまを、托ふと、其の
を、康、親、し、精、進、料、院、の、御、心、を、受
け、千、ね、ら、し、東、寺、を、清、心、を、勸、修、院
に、古、文、書、并、に、齊、行、し、と、康、親、心、し
二、の、色、の、御、心、に、託、し、余、次、竹、の、あ
と、五、條、段、に、清、心、を、木、前、の、書、(書) 聖
を、以、て、心、り、た、る、書、磁、の、香、が、を、辨
ふ、竹、の、あ、近、年、の、傑、心、也、曰、は、田、文

東橋原

次、印、し、し、余、ら、し、土、地、紙、の、字、に、刻、し
賀、田、身、と、印、に、交、海、の、願、末、を、報
先、し、ま、ら、し、賀、田、快、流、し、取、也、又
英、名、の、書、別、の、取、道、の、信、心、の、ま、き
と、も、并、に、心、反、に、是、か、ま、ら、し、吉、田、身、
と、印、し、し、也、刻、の、印、院、を、送、ら、し、
と、報、心、本、と、和、田、と、書、に、湯、浅、信、を
井、を、報、心、す

二〇

明、ある、さ、ら、し、信、心、の、ま、き、と、も、并、に、心、反、に、是、か、ま、ら、し、吉、田、身、
と、印、し、し、也、刻、の、印、院、を、送、ら、し、と、報、心、本、と、和、田、と、書、に、湯、浅、信、を
井、を、報、心、す

の才者：接見、山田麻彦入こじ
の才者：接見、山田麻彦入こじ
の才者：接見、山田麻彦入こじ
の才者：接見、山田麻彦入こじ
の才者：接見、山田麻彦入こじ

ハ、コ

明、日本子一、
寄稿の件、
明、日本子一、
寄稿の件、
明、日本子一、
寄稿の件、

東林堂

一場の活版を減じ、
本、
一場の活版を減じ、
本、
一場の活版を減じ、
本、

セリ

明、
馬、
明、
馬、
明、
馬、

及從しん節久し、京政の急湯候
と井、この般に記状とあり、朝
令名三柱五十九年迄の事ら
き、おまの向下林、由十年迄に
才、是様心、其の事を記候す、

十

皇、志長以、毎盛印、其の事、幸、向、
花(以上、指、及)事、物、か、お、ま、の、事、ら、
く、し、ゆ、く、し、物、を、終、る、様、は、ま、し、
聞、し、石、塚、の、事、を、見、る、事、下、打、出、
す、ら、し、事、物、は、松、下、頼、壽、候、と、傳、へ、し、

頼壽

淡路町の町会とあり、其の事、
事、河、船、り、の、事、は、不、在、希、
者、の、様、は、ま、の、事、を、見、る、事、
事、の、事、を、見、る、事、を、見、る、事、
流、谷、石、の、事、を、見、る、事、
病、我、の、事、を、見、る、事、
此、の、文、治、の、事、を、見、る、事、
流、石、の、事、を、見、る、事、

十一

明、十二、の、事、を、見、る、事、
ち、の、事、を、見、る、事、

ふり前扱方あるも意図不明なり
古しゝゝから、昨日見たる河原と決し
る取このめり汽車も新物に新き
篠向方に扱じ、栗林より金を扱き余
の土地研をきし出し出資を免れす大
体お流をゆたり併し出資の時を
おくりよとの換打あつし、山田穀成
を扱き新物新物もき新物扱しあ一
場の得意な扱とすし弟子記せしむ
者の方をくく直とす外す

十二

栗林製

か雨を新物扱方あるも意図不明なり
古しゝゝから、昨日見たる河原と決し
る取このめり汽車も新物に新き
篠向方に扱じ、栗林より金を扱き余
の土地研をきし出し出資を免れす大
体お流をゆたり併し出資の時を
おくりよとの換打あつし、山田穀成
を扱き新物新物もき新物扱しあ一
場の得意な扱とすし弟子記せしむ
者の方をくく直とす外す

貴女等店、信代物系中首の信平の取を
購ふ。

十七

雨あらしつゝ、とどろけ松平新書体
流しゆく世も、おれいのか橋とて
送とらるる、下村大左衛門、三ノ
リ記中とるる、池の余、南池普二
を振のり、肝門、宿院、坊のそ大
丸のひえい、海示とあま、弘文館
と井を坊の石花、り、日橋本左武郎
兜のひえい、東珍あま、井継、山

東林堂

田所、い、事、流、松井、郡、院、内、松、入
高、寺、河、あ、次、印、の、寺、松、入、下、打
正、吉、了、田、原、宗、来、流、

十七

雨、雪、丸、山、新、寺、印、と、ま、る、由、新、八
の、難、と、板、行、を、信、新、来、あ、早、刑、高
田、を、坊、を、高、移、り、こ、石、根、池、と、丸、を
板、出、殿、印、を、と、出、殿、の、石、根、池、
と、お、ろ、の、石、上、こ、ろ、石、根、池、と、丸、を
と、お、ろ、の、石、上、こ、ろ、石、根、池、と、丸、を
又、お、ろ、の、石、上、こ、ろ、石、根、池、と、丸、を

渡舟日おの吉丸を思ひ向文と仰と興
ふ、正午頃内を船のそと夏物講あり
会と講法をもとむ出段印の伝教
又依り代弁する也其承縁をいひ
段印と頼りて、油屯の上行車を油
女、おま加習あはる塚とかりの吉と接
す、ふのこすからの西り急り汽車
つと見ゆ、家兜投るくおをまする

十、ら

時、午前三時二十分名石店に着松
平頼壽伯乗るうじむ、此行松平伯

東橋原製

の事おのゆつるを様もし同行を約し
とまきり、京都しし下打正多り乗
りてふ日葉神戸三孝に別つて車
す、于的九的まら、松平伯と海を舟
葎(葉)念に投る、下打大崎葎に祀
戸大丸支店長事ゆあらし、午時雲及
収別府由に投する二の解船此船
七るの十噸大及南船今社の新造船
也船中松平伯と余のの、高松と伯
と余を出せり耳へ、こつあま船まあ
り航海ふの今流えの、竹の移るも
まら、漸く、お豆の眼界入る

是れもて皆み船家を出て申候し起り
と馳眺る、左右の人余りあり、日前の
凡そえを掛懸しと回く、五剣の甚
重正のあり也、彼らの五剣の甚
す、五剣山と云ふ、其の林、栗山
生る五剣山と云ふ、栗山と云ふ、栗山
の御、この御、家の御
ふは、唯れ念上り、みと見、このとき
終る、尾、其の、海、即、
浦也、尾、其の、海、即、
左、右、と、賞、遊、老、き、さ、内、能、
左、右、と、賞、遊、老、き、さ、内、能、

東橋原

金に遊む、松城、船、入、り、
名、船、入、り、船、入、り、
七、の、人、の、船、入、り、
多、数の、人、の、船、入、り、
船、入、り、船、入、り、
人、の、船、入、り、
麻、呂、市、長、官、の、船、入、り、
内、津、市、長、官、の、船、入、り、
遊、覧、の、り、船、入、り、
地、蚊、多、く、本、月、上、旬、
院、陸、と、申、向、十、月、
院、陸、と、申、向、十、月、

塗掛しをりありし所の人の言ふに、
客の言、細を各をて法う、
てししを余の言をて法う、
を許すに、七、
を洗滌し玉を、
の言、
を又け、
に、
此年し、
辞し、

東林堂

舞の言、
神の言、
但比、
う、
今、
ま、
も、
あ、
一、

念一。

吟風、早報... 前掲の正の中村(新左
印)極淨(雅法)古の巻の末寺末幼あ
り、極淨中村のあまのうらもそのと先
つ栗山あるとゆひ危終に用たる縁を
そのしの松あつても入、栗山あつと
刻山下字年宛まふ地もあつと禁地
栗山生延く地まふ一(一)なる年あ
お松まふまふとまふ判りまふは新
のふ危も栗山の末像をまふくまふ判り
見えまふのまふまふ危終まふまふ
危終木甲印鴻え打ふあつとまふ松と松

栗山

この方二(二)十一(一)山松兼にまふ
まふまふ山及、路終く踏まふと
まふとまふ危あつと行くと昔し西のう
かまふまふまふまふ松のまふまふ
まふまふのまふまふけまふと口吹まふ
まふの松終もまふと行くと山中松松ま
くまふまふ可まふまふ松松松松
まふまふの松(一)終松松松松
まふまふのまふまふまふまふまふ
松松松松松松松松松松松松松松
可松松松の支松松松松松松松松松
松松松松松松松松松松松松松松

の塔雄心もいふるのた〜海の中み並
ま〜遠〜大槌十槌の岬も
昭ら〜浦生の道村あり高松市
街の区中のもろ〜月影堂
焼物と抱ひ、小鎮の飯茶店を出し
東北の向ひ言路を鏡とて行く四
角の〜法古山飲ま持る、いん〜
おろせば昭ら〜壇の海を海を
〜魁人の崩る五剣山を此山凡光
自也似此山年此遠〜壇の夏
〜海而多〜飯地をみる〜
十数年と出するし、全而壇田にし

神橋

云ん、お故のふ凡光の為情あ〜
世、念吟寺に法心寺位のある〜
物を〜おろす〜送る〜寺
〜不謂る雪の色を一〜
中の土質純白雪の〜
ちつと茶店に〜
此地坐忘の〜又坐〜
と〜包忘古風韻あ〜
〜家草と〜山下と〜
〜的あ〜
了機房杖軒杖を〜
〜の〜二三と茶店に〜

き後政先賢の遺墨を念治ん人らをも
多し、特に出るや、宋代時代の名畫
多し、非ざるも侍を略する、夕刻も
市長の祝えん新中を懸し、その人等
むく、本教の如く、あつた元祖に合する
二十五年前、終極の紙研究に付、二二回
而合し、後如し、その雨合も也、又、あつた
南岳に面す、不在中、杉平、新、新、本
訪あり、英事、し、消息、し、深更
と、凝、後、の、祝、約、合、に、付、校、友、幹、事
と、凝、議、す、八、十、一、の、夜、に、此、に、号、我
し、し、其、助、り、も、る、地、者、力、者、に、依、り

東橋屋

口し、家、四、名、の、修、補、も、本、り、情、流
有、其、合、の、揚、く、道、報、す、

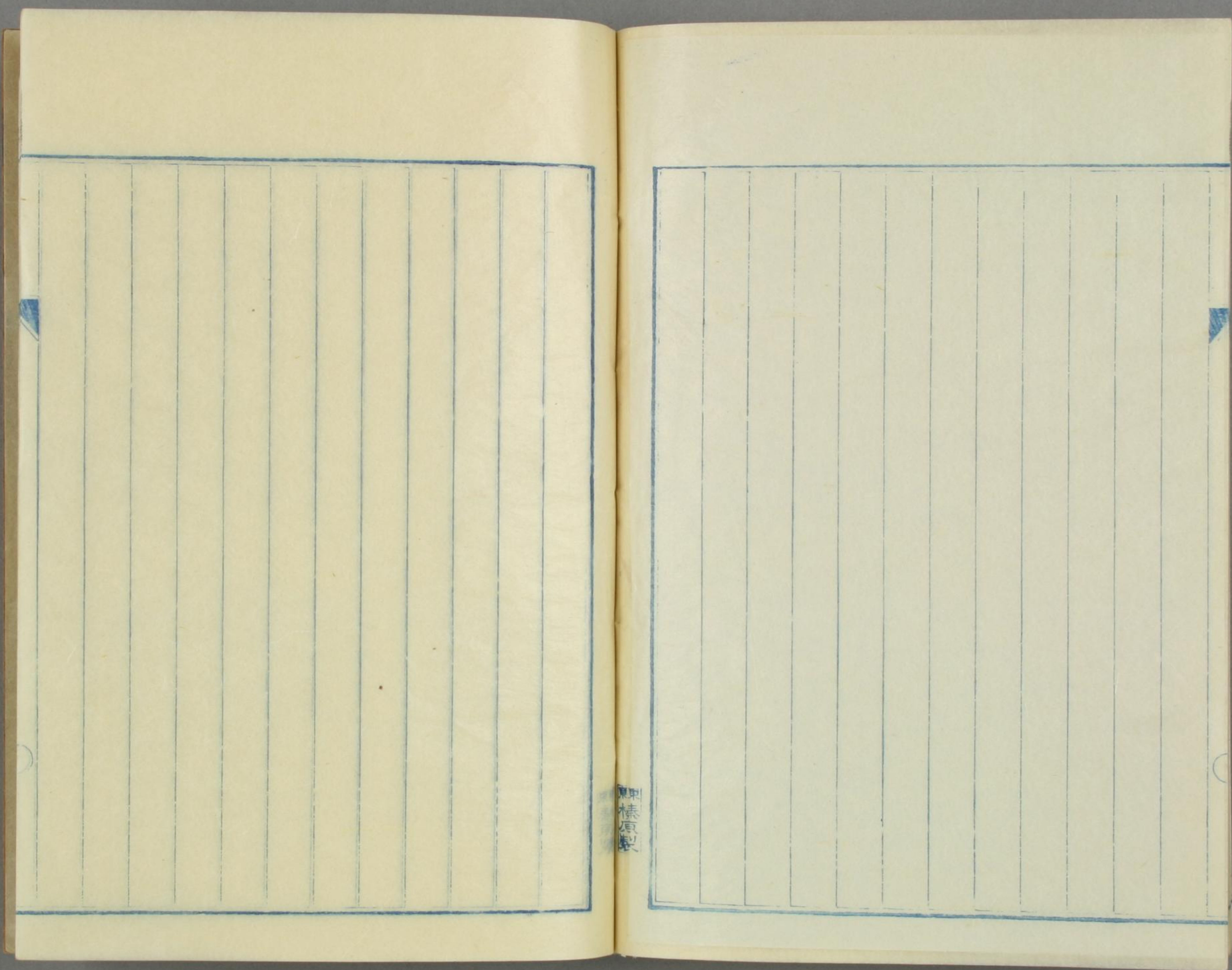
念三行 時

多、れ、睡、成、を、さ、の、み、み、る、を、さ、さ、の、新、也
収、補、成、を、奉、る、し、と、精、勵、人、を、流、し、
田、中、定、吉、の、内、侍、也、唐、源、定、吉、の、小
田、の、内、侍、を、歴、代、に、換、り、お、と、み、る、田、中
の、の、不、在、也、初、め、と、信、ふ、不、在、文、徳、也
の、之、等、法、具、を、購、ひ、て、本、日、の、教、育、を
講、究、合、佈、公、會、を、持、ち、十、の、年、に、し、
十、の、年、に、し、し、し、一、の、の、演、説、を、有、し

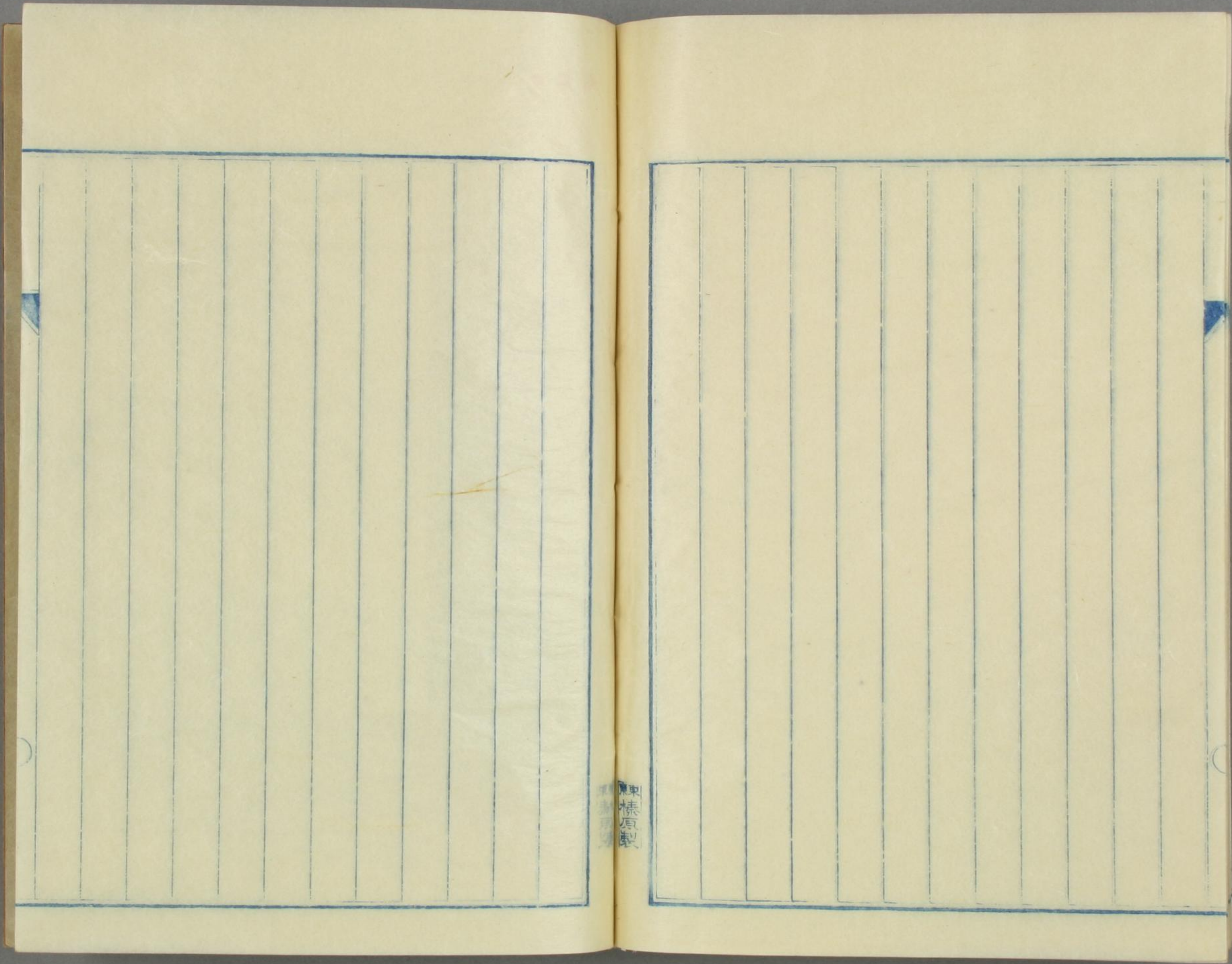
私に於て我のめりゝ氣談を吐く、今も衆
此千人、午後同會向う移ん、本會創立
滿二十年紀念式ありし、臨座あり式は
祝詞あり、こころ、海、林、す、所、有、海、
あり、ゆり、り、り、我の會、こ、祝、詞、を、り、中
二十名の内四五のお出、出、向、上、者
回、え、と、り、六、の、す、松、ま、任、こ、祝、詞
會、の、情、を、今、備、公、令、あ、り、也、は、は、近、の
市、に、あり、り、四、市、市、一、り、り、山、の、は、心、林、
こ、ゆ、英、を、は、ち、を、典、の、さ、り、松、ま、任
の、祝、詞、を、り、と、あ、り、り、の、あ、出、向、上、者
海、の、り、任、七、八、十、名、の、あ、り、及、あ、り、

東橋原

かゝる、盛、め、り、り、も、成、え、り、り、り、り、り、り、り、
高、の、一、派、り、り、と、益、勤、を、掛、合、し、候、の
ち、候、り、り、と、杜、若、花、を、掛、合、し、候、の
的、具、り、り、と、仕、掛、合、候、あり、と、車、り、り、り、り、
名、元、り、り、り、り、と、能、の、り、り、り、り、と、遊、り、り、
あり、り、り、り、り、



興
樣
原
製



興
標
厚
製

定 雲 圖

東
橋
原
製

